



わかば・ふたば 永瀬級 研究授業

9月 29日発行

1 これまでの授業づくりから

「わかば・ふたば」の発達レベルや特性に応じた手立てとして、上に以下の点に重点を置いて実践しました。

・段階的な「ミッション設定」と達成感

児童やグループの実態に合わせ、難易度を段階的に設定した「ミッションカード」を取り入れました。一人ひとりが「難しすぎず、できた!」「達成できた!」という確かな達成感や学習意欲をもてるよう配慮しました。

・一人ひとりに寄り添った個別の支援・環境づくり

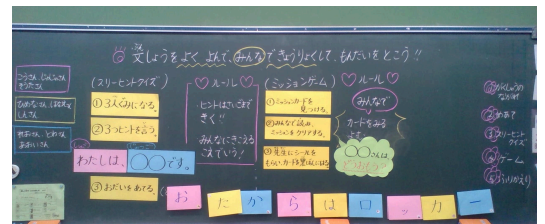
全体の前での発表や緊張が苦手な児童のために、手元で確認できるカードや話型を提示する等の配慮を行いました。また、状況に応じて座って取り組めるような姿勢や環境を整えることで、どの児童も落ち着いて活動に参加することができました。

・情報や見通しの「視覚的整理(見える化)」

色分けした板書や指示カード、スリーヒントカードを活用し、視覚的に伝わりやすい情報提示に努めました。また、「本時の目標」や活動から振り返りまでの5つの流れをあらかじめ掲示しておくことで、児童が次に何をすればよいかを自身でスムーズに把握できるよう工夫しました。

・ゲーム形式と事前ルールの共有

単なる作業で終わらず、「ミッション達成」や並び替えなどのゲーム要素を取り入れることで、楽しみながら主体的に学ぶ姿を引き出しました。事前に全員でルールを丁寧に確認・共有したことで、トラブルなく安心して活動を進めることができました。



2 研究授業や協議から学んだこと

授業後の研究協議会では、指導主事・指導教諭をはじめご参観いただいた先生方から、多角的なご意見や温かい指導助言をいただきました。

・対話と協力を生み出す言葉かけの仕掛け

協議会では、あらかじめ「〇〇さんはどう思う?」というキーワードを伝えておく仕掛けについて、「孤立する児童を出さず、自然に互いを意識し合い協力する姿につながっていた」という評価や視点をいただきました。単に「協力しましょう」と伝えるだけでなく、具体的なやり取りの型を提示することの大切さを再認識いたしました。

・集団づくり(グルーピング)の重要性

普段の学習状況や相性、特性、学力面を深く考慮したグループ編成を行うことで、友達同士で問いかけ合ったり、人目を気にする児童も一歩踏み出して目標を達成できたりしたという成果をご指摘いただきました。環境や教材だけでなく、「誰とどう学ぶか」という集団づくりの重要性を深く学ばせていただきました。